

(財)日本ユニセフ協会佐賀県支部通信 第16号 2008年2月

事務所：〒840-0054 佐賀市水ヶ江4丁目2-2 TEL/FAX 0952-28-2077

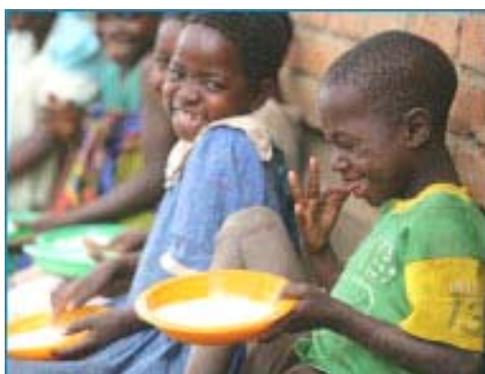
e-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp

URL <http://www2.odn.jp/unicef-saga/>

\$\$\$ 支部通信はホームページでもご覧いただけます

たくさんのハンド・イン・ハンドご協力 ありがとうございました

～ 子どもの未来は 栄養が握っている ～



©UNICEF Malawi

◎ 第29回ユニセフ ハンド・イン・ハンドは、「子どもの未来は、栄養が握っている」をテーマに2007年11月から12月までの2ヶ月間実施しました。佐賀県内はもとより県外からも多くのご協力をいただきました。

◎ 皆さま方から佐賀県支部を通じてご協力頂いたハンド・イン・ハンド

募金総額は何と、 **2,780,000円** にも達しました。

この金額は、支部前身の「佐賀友の会」時代を含めましても最高の募金額です。また、ボランティアの皆さまも170名を越し、たくさんのご協力をいただきました。

「佐賀にユニセフの支部があるから、寄付を持って来られるのでたすかる。今まで思いはあったけどどうしてよいか分からなかった…」と言って事務所までおいでいただいた方、団体・企業の方からの「いつもは、してもらいばかりの子どもたちに、今年は子どもたちが世界の困っている子どもたちに何かしよう、と募金活動をしました。」「社会に還元したい。ついてはユニセフを通じて世界の大変困難な状況下にある子どもたちの支援に活かして欲しい。」ということでのご協力が多かったこと、更には、学校の総合的な学習の発展として募金活動に取り組み、それをハンド・イン・ハンドへ…等々、多くの皆さまの温かいお気持ちでこのような大きなご協力をいただくことができました。ありがとうございます。心から感謝申し上げます。

◎ 2007年12月28日・31日に総計2,780,000円を日本ユニセフ協会へ送金しましたことをご報告します。

2007 ハンド・イン・ハンド in 佐賀県

12月16日(日)

- ◎ 暖かい「ハンド晴れ」の午後、佐賀玉屋デパート前・上峰サティ・イオンスーパーセンター佐賀店・バニーズ三日月店・ジャスコ佐賀大和店の5箇所で「子どもの未来は栄養が握っている」というテーマで募金活動をしました。各会場近くの方や福岡市、武雄市、柳川市などからもボランティアさんが駆けつけてくださいました。
- ◎ 買い物客で賑わう会場では、ボランティアのみなさんが「4円あれば1年分のビタミンAを世界の子どもたちにおくることができま〜す。ご協力をお願いしま〜す！」と大きな声で呼びかけました。
- ◎ ボランティアの中学生は「募金をしてくれる優しい大人の人たちがたくさんいてうれしかった。世界の子どもたちのために少しは役だったかなと思うと、自分もうれしかった。」と話してくれました。
- ◎ ご多用のなか駆けつけてくださったボランティアのみなさま、募金に温かいお気持ちをお寄せいただいた多くのみなさま、快く会場をご提供くださった企業のみなさま、本当にありがとうございました

上峰サティ会場（上峰町）



(中原小学校OBの皆様他、多くの皆様のボランティア協力)

佐賀玉屋会場（佐賀市中央大通り）



(循誘校区ボランティア、佐賀大学他、多くの皆様のボランティア協力)



イオンスーパーセンター
佐賀店会場（佐賀市東与賀町）



(柳川市矢ヶ部小学校、三橋中学校の皆様のボランティア協力)

バニーズ三日月店会場 (小城市三日月町)



(小城市三日月中学校若竹ボランティアの皆様の協力)

ジャスコ佐賀大和店 (佐賀市大和町)



(福岡市・武雄市など遠方からの皆様、地元の皆様のボランティア協力)

12月24日(月)

- ◎ 鹿島地区では冷たい北風のなか、ピオ・ララベルの2箇所でハンド・イン・ハンドを実施しました。ボーイスカウト鹿島第一団のみなさん・リーダーの方・保護者の方などたくさんのボランティアが、買い物に来られるお客様に大きな声でユニセフ募金への協力を呼びかけました。



(ボーイスカウト鹿島第一団、保護者・関係者の皆様のボランティア協力)

世界の子どもたちは、今

<ケニア>

ケニア:死者 900 人。国内避難民 30 万人。

～ ユニセフ 7 億円の支援を求める～

【2008 年 1 月 30 日 ニューヨーク発】



© UNICEF/2007/Sittoni

ユニセフは、ケニアの避難キャンプでの生活を余儀なくされている女性と子どもたちに、少しでも安心できる環境を提供できるよう、人道支援活動を続けています。



- 1.面積 58.3 万平方km
(日本の約 1.5 倍)
- 2.人口 3,430 万人
(2005 年:世銀)
- 3.首都 ナイロビ (220 万人)
- 4.民族
キクユ人、ルヒヤ人、カレンジン人、ルオ人等
以上、外務省HPより

ユニセフは、昨年末の大統領選挙に端を発したケニアの暴動で、深刻な被害を受けている女性と子どもたちを守るため、660 万米ドル (約 7 億円) の支援を緊急に求めています。「ケニアで建国以来はじめてとも言える子どもたちと女性に対する深刻な暴力が何日も続いています。」ユニセフ・ケニア事務所のサラ・キャメロン広報官は、このように伝えます。

この事態を收拾するため、元国連事務総長コフィー・アナンが、先の選挙で再選を果たしたムワイ・キバキ大統領と野党のライラ・オディンガ氏との間の和平調停を進めています。しかし、ケニア全土を巻き込んだ今回の暴動を集結に向かわせる話し合いはほとんど進展していません。

29 日には、野党のムガベ・ウェレ氏が家の外で銃撃され死亡した事件の余波から、少なくとも 9 人が殺されました。暴行や放火も頻発しています。19 人の女性と子どもたちが放火で焼死したとも報告されています。これまでに、推定 30 万人が避難生活を余儀なくされています。「放火を恐れ、暴行や脅迫を恐れ、あるいは漠然とした恐怖心から、何千人もの人々が家を離れています。」(キャメロン広報官)

暴動が始まってから 1 ヶ月あまり。現在、当初の 2 倍の数のレイプ被害が報告されています。不満をもらす避難民キャンプの女性たちは、キャンプで援助活動をすすめるユニセフなどの人道支援団体のスタッフの目の前でさえ、脅迫されている状況です。

十分届いていないケニア西部地域の数が含まれていません。ビクトリア湖畔町キスムでも、略奪や暴力が目撃



© UNICEF Kenya/2008/Bonn

家を焼かれ、暴力の被害を受けた多くの人々が、キクユからマウイニングへ避難しました。

されています。「店は略奪され、町は廃墟となっています。略奪や、放火が繰り返され、住民は逃げ出してしまったのです。」(キャメロン広報官)

ケニア全土に設置された 300 箇所を超える避難民キャンプは、避難民でごったがえしています。多くの人々が、恐怖と飢えに苦しんでいます。国内の輸送がスムーズにゆかず、支援物資を提供し彼らに最低限の安心を与えることが非常に難しい状況です。

避難民キャンプには、5 歳未満の子ども 8 万人が含まれると推定されています。ユニセフは、これまでに、栄養不足が懸念されるこうした子どもたちの 7 割に、ユニミックスと呼ばれる栄養補助食品を提供しました。しかし、まだまだ支援が必要です。

「最低限の緊急支援活動を続けるために、ユニセフは、660 万米ドルを必要としています。(子どもたちが少しでも安心できる空間や時間を提供するため) 学校活動や『安心できるスペース』を早急に提供しなければなりません。今ケニアを襲っている状況は、色んな意味で、この国の将来を担う子どもたちを危機的な状況に晒しているのです。たとえ、明日平和が訪れたとしても、ケニアがもとの姿に戻るまでには、長い年月が掛かるでしょう。」(キャメロン広報官)。

★ ユニセフ・ケニア事務所の緊急支援担当部でインターン研修中の永田有花さんが、子どもたちの声を伝えてくれました。

子どもたちの叫び

ユニセフ・ケニア事務所では、避難民キャンプの子どもたちにテントや医薬品、水、衛生用品などの支援物資の配布などの支援活動を進め、子どもたちの状況を確認する中、子どもたちの「声」を集めました。

ポール君 (8 歳) エルドレット市
「お父さんが家に駆け込んできて、あいつらが殺しに来るぞって叫んだんだ。僕にはあいつらって誰だか分からなかった。だからお父さんに聞いたら、お父さんは僕らがキクユ族だからって答えた。お父さんについて近くのポール教会に行ったんだけど、荷物を持っていく時間もなかった。教会は僕達の他にも逃げてきた人達でいっぱいだった。次の日、早起きして家が大丈夫かどうか見に行ったんだけど、家は跡形もなく焼かれていた。何もなかったんだ。悪いやつらが来た時、誰も家にいなくてよかったと思うけど、もう帰る家もないし、学校に着ていく服もないんだ。」

アンさん (14 歳)、エルドレット市
「とにかく、今この国でこんなに人々が憎しみあっているっていうことにショックを受けているの。こんなに人々が殺しあっているのは見たことがないわ。男であろうが、女であろうが、子どもであろうが、関係ないの。教会に逃げる途中に、老人と彼女のお孫さんが男の人に殴られているのを目の前で見たわ。その光景が夢にも出てきて、夜も眠れないの。投票結果が発表されてから、お父さんともお兄さんとも会っていない。今教会はとても込み合っていて、ここにいるからといって安全でないことも分かっている。近くの教会が焼かれて、避難していた人達も殺されたって聞いたわ。いつになったら普通の生活に戻れるのか、実際に戻れるのかも分からない。選挙で勝った人もそうでない人も、国のリーダーなのだから今の事態に対して何かしないといけない。今の状況を変えることができるのは彼等なのだから。あと何人の人が死ななきゃならないの？私が悲しくなるのは、こんな事態を引き起こした彼等が何もしないで、貧しい私達が全てを失っていくってことなの。」

ジョン君 (16歳) エルドレット市

「お父さんは目の前で殺された。近所の人に。その人は友達のお父さんだったから、僕は殺されずにすんだ。このことについてはもう話したくない。もううんざりだ。寒くてもお腹が空いていても、誰も助けてくれないよ。食料は届くたびに取り合いになるから、僕は殆ど何も食べていない。選挙なんかなかったらよかったのに。」

最低限の「安心」を確保するために

避難民の多くが、心と身体に傷を負った子どもたち。ユニセフは、昨年末の暴動発生直後から、避難民キャンプも含め、被害にあった子どもたちを守る環境を整える緊急支援活動を展開しています。

これまでに、防水シート、毛布、調理器具などの生活必需品を含むファミリーキットと呼ばれる緊急支援物資を6万人以上に届けました。

【資料提供：日本ユニセフ協会】

Let's unicef

ボランティア 宝蔵寺彩和子さん (佐賀大学医学部看護学科)



私は現在、佐賀大学で看護の勉強をしているのですが、いくら良い医療ができるとしても予防に勝るものはありません。しかし、予防どころか世界には生まれた頃から汚染した環境の中で生きているために5歳までも生きることができない子どもたちがこんなにもたくさんいることを知ったとき、「自分は医療を勉強しながら、この子どもたちに対して目を瞑っておいていいのか」と考え、ふだんの生活を見直すようになりました。

すると、私たちがごく普通の生活の中だけでも、援助につながる事がたくさんあることに気付きました。もう少し早く気付いていればと悔しかったので、もっと多くの方に1日でも早くこの事実に気付き目を向けてほしいという願いを込めて日々活動させていただいています。

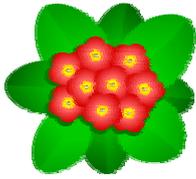
先日、使用済みインクカートリッジ回収協力のお願いのポスターをたった1枚学校の掲示板に掲示しただけなのですが、たくさんの使用済みカートリッジが集まり、例えば、ビタミンAのカプセルにすると、約600人の子どもたちに1年分のビタミンAを送る事ができる程の援助ができました。

看護の資格を取ったら、自ら現地に赴き子どもたちのために資格を活かした援助を行いたいというひそかな思いを抱きながら、これからもユニセフの力になっていきたいと思っています。

これからの予定



1. 3月12日(水) J A女性組織協議会「愛の募金」贈呈式 (佐賀新聞社)
2. 5月3日(土) グッズの頒布・募金活動 (有田陶器市会場 今右衛門古陶磁美術館前)
3. 5月17日(土) ユニセフ母の日チャリティーバザー (佐賀玉屋デパート南館アーケード)
4. 6月1日(日) パネル展・グッズ頒布・募金活動 (鹿島ガタリンピック会場)
5. 6月2日(月) グッズ頒布 (国際ソロブチミスト有田認証二十周年記念アグネス・チャン講演会場)



かつどう ほうこく

- ◎ 11月27日(火) 佐賀県庁にてユニセフグッズの頒布 (佐賀県庁)
- ◎ 11月28日(水) 佐賀市立城東中学校募金贈呈式 (事務所)
城東中学校JRC委員会の皆さんは定期試験の合間をぬって、1学期に取り組んだ募金と文化発表会のときの募金、あわせて**12,598**円を事務所まで届けてくださいました。
- ◎ 11月29日(木) 佐賀県合同庁舎にてユニセフグッズの頒布 (佐賀県合同庁舎)
- ◎ 12月1日(土)～12月16日(日) ユニセフパネル展「ユニセフの願い」 (佐賀市佐賀玉屋デパート)
ユニセフグッズ頒布会「1枚のカードで守る、こどもの命」(佐賀市佐賀玉屋デパート)



パネル展 (1日～16日)



グッズ頒布会 (8日)

- ◎ 12月2日(日) ユニセフボランティア講座Ⅲ・さが国際交流・協力フェスタ2007 (佐賀市アバンセ)
 - ① ワークショップ「一枚の看板」：支援のあり方について考えました。



- ② 現地視察報告会「カンボジアの子どもたち」



カンボジアの留学生によるクイズ



レポーター 山屋満津江さん



カンボジアの資料展示



「いのちの網ゲーム」

1. 「いのちの網」ゲームをして

- ★ 動物や虫や草など生き物のいのちはみんなつながっているんだなあと思いました。いのちのつながりってすごい!
- ★ 生きるということはみんな微妙なバランスで保たれているんだなあと思った。
- ★ 小さいいのちが死んでいくと大きな動物まで死んでいくと分かって、いのちのつながりはすごいなあと思いました。いのちの大切さが改めて分かりました。

2. 絵本「いのちのまつり」を読んで

- ★ 私のいのちはずーっと昔からつながっていたということを考えたこともなかったので、すごいなあと思った。
- ★ 自分はたくさんのいのちがつながって今ここにいると思うととってもすごいことだと思った。感激しました。
- ★ いのちは周りの植物や動物など横のつながりだけではなく、先祖からの縦のつながりもあるんだなあと思った。一人の人のいのちだけかと思っていたけど、ここにもたくさんのいのちがつながっているんだなあと思った。読むことができてよかった。

3. 私の「はじめの一步は...」

- ★ 食事のときに、いろいろないのちのつながりを感じながら食べたい。
- ★ 私の今の普通の生活が世界の子どもたちにとっては、とても幸せなことなんだと思った。小さなことからでも世界の子どもたちのためにできることがあったらやっていきたいと思った。



人権集会でユニセフ募金の贈呈式が行われる予定でしたが、風邪が流行っているため集会は中止となり、校長室での贈呈式となりました。

三日月の子どもたちの温かい気持ちはいっぱい、15,686円がボランティア委員会代表から手渡されました。

贈呈式のあと短い時間ではありましたが、佐賀県支部作成の資料「いのちの水」を見ていただきました。

◎ 12月19日（水）大木町立大溝小学校 6年 出前授業「世界の子どもたちは、今」

（福岡県大木町立大溝小学校）



総合的学習の時間に世界の様々な国や地域の子どもたちの暮らしを調べてきました。今日はまとめとして「世界の子どもたちは、今」の学習をし「くすり屋さんをさがそう！」の活動で文字が読めないことへの不安さや戸惑いを体験しました。

学習を終えて

★「くすり屋さんをさがそう」で1回目は読めなくて不安になったけど、2回目の「薬」は読める漢字だったので安心して行けた。

- ★ 日本では大人が働いて子どもが学校に行くのは当たり前だけど、世界には働かないといけない子どもが2億5千万人もいておどろいた。学校に行けない子どもがいっぱいいるので支援をしたい。
- ★ 1円や100円など安いお金と思っていたけど、たった1円でも4円あると命が救えることにびっくりした。はがきなどのリサイクルで命を救えるということが分かって、やりたいと思った。

◎ 12月21日（金）柳川市立大和小学校 募金贈呈式

（柳川市立大和小学校）



大和小学校では運営委員の皆さんがユニセフについて学習し、パワーポイントでまとめて児童集会で全校のみなさんにユニセフの活動や身近な形で支援できることを伝えました。

12月10日から17日まで5・6年生の皆さんが毎朝交代で校門に立ち募金活動をしました。協力してくれた人には手づくりの「ユニセフ募金ありがとうカード」を渡しました。

6日間で集まった27,768円のユニセフ募金の贈呈がありました。

◎ 12月27日（木）ボーイスカウト佐賀第5団 募金贈呈式

（事務所）



ボーイスカウト佐賀第5団カブの12月のテーマは「カブのクリスマスプレゼント」。

いつもクリスマスにはプレゼントをもらうばかりなので、今年は子どもたちがサンタさんになって「世界の困っている子どもたちにプレゼントしよう」と、募金活動をしました。

16日に20名の団員や保護者の皆様は、ゆめタウンで手作りの募金箱を持って一生懸命お客様に募金協力を呼びかけました。

本日は事務所を訪れて33,340円の募金を手渡されました。募金贈呈の後、「水」についてのミニ学習会をし、水がめ運びをしたりORS（経口補水塩）やビタミンA、プランピーナッツなどのお話をしたりしました。ビタミンAに例えると、今回の募金で8,000人以上の子どもたちに1年分のビタミンAをプレゼントできると聞いて驚いていました。

◎ 1月12日（土）（財）日本ユニセフ協会佐賀県支部第8回理事会

（佐賀新聞社会議室）



2007年度の事業経過報告・見込み決算、ならびに2008年度の予算編成について協議していただきました。

◎ 1月20日(日) 柳川市立矢ヶ部小学校 募金贈呈式

(柳川市立矢ヶ部小学校)



矢ヶ部小学校では昨年11月の「校区ふれあい祭り」でもちつき大会をして、地域の方々にユニセフ募金の協力を呼びかけたり、11月21日から10日間、児童会の皆さんが登校時に校門で募金協力を呼びかけたりしました。この日は、日曜参観日で保護者の方や地域の方々のご参観のもと、募金の贈呈が行われました。「ぼくたちは世界の困っている子どもたちのことを色々と勉強しました。どうぞ、そのような子どもたちのために役立ててください。」と、**62,783**円の募金を手渡されました。

佐賀県支部では、人参・かぼちゃ・ほうれん草などの野菜を手にとビタミンAの重要性をお話し、ユニセフは子どもたちの命を守るためにビタミンAカプセルを定期的に補給していることを伝えました。

◎ 1月23日(水) 上峰町立上峰小学校6年 出前授業「世界に目を向けて」

(上峰町立上峰小学校)



食料・エネルギー分配ゲーム



マラリア予防の蚊帳に入ってみよう

6年生のみなさんは、総合的学習の時間に「世界に目を向けて」というテーマで学習をし、世界の様々な国や地域の子どもの暮らしを調べてきました。

今日は、「食料・エネルギー分配ゲーム」等を通して、私たちの「食」は大きく他国の農水産物や資源によって支えられていることに気づき、自分たちの暮らしが他国の人々とのつながりの上に成り立っていることについて考えました。さらには、様々な困難な状況下で暮らす子どもたちの現状を知り、自分たちにできることについて考えました。

学習を終えて

- ★ 外国にはストリートチルドレンの子どもたちがたくさんいることに驚いた。家にもどると親からぎゃくたいを受けてしまうため、マンホールにもぐりこんで暮らしているということがかわいそうだった。私は、欲しくても別に買わなくてもいいなあと思うものはやめて、募金をしようと思いました。
- ★ 私は、多くの子どもの暮らしが栄養不良や簡単に治せる病気で死んでしまっていることを知ってショックでした。私は教えてもらったことを伝えたり、募金活動に参加したり、世界のことに興味関心を持って調べたりしたいと思います。
- ★ 私の心に一番残っていることは、プラットホームなどで寝泊りして自分の帰る家を持たない子どもたちがいるということです。自分たちがすごく恵まれているということが分かりました。私は自分の生活を見直し、水や電気などを使いすぎているか、気をつけていきたいと思っています。



6年生の皆さんは、総合的な学習の時間に、世界で困っている子どもたちのことについて調べました。その中で、世界の子どもたちのために活動しているユニセフについての調べ学習を深め、自分たちができることとして、ユニセフ募金活動に取組み、全校の皆さんに協力を呼びかけました。

更には、1月22日の授業参観日に、手づくり品のバザーをして地域の人々にも協力を呼びかけました。山内東小学校の子どもたちや地域の人々の温かい思いがいっぱいだった募金、**38,579**円を手渡されました。

子どもの声

バザーで手づくりのコースターを**1枚50**円で売りました。コースターは布で作りました。コースターが売れたときはとても嬉しかったです。このお金で、世界の貧しい暮らしをしている子どもたちを助けてください。

- ◎ 1月30日（水） 国際ソロプチミスト有田認証二十周年記念「島田洋七講演会」会場において
ユニセフグッズの頒布



会場は**1,000**人を越える人々で満席でした。

お客様にグッズ価格の半額が現地での子どもたちの支援になることをお話し、ユニセフグッズへのご協力を呼びかけました。

また、大阪の方よりバザー品としてご提供いただいたかわいい「網ぐるみ」のマスコットも好評で、売上げは全額募金としました。

佐賀新聞 有明抄

2008年（平成20年）1月8日（火曜日）付

季刊発行の『ユニセフニュース』冬号で日本ユニセフ協会の澄田智会長の新年あいさつを読んだ。世界の子どもたちに希望に満ちた未来を贈りたい—という切実な願いが込められている◆今、世界のあちこちで起きている自然災害や紛争。絶望的な貧困やエイズ。さまざまな困難が世界の子どもたちの命を脅かしている。尊い“生”を受けながらも劣悪な環境の中で、わずか5年間すら生きられず亡くなっていく子どもたち。1990年の統計ではその数、1年間に約1300万人。予防接種など十分な保健サービスが受けられないため◆ユニセフはこういった5歳未満児の死亡率低下のため「完全母乳育児の促進」「予防接種の推進」「ビタミンAの投与」「マラリア防止のための蚊帳の配布」などで年間死亡数を2015年までに1990年の3分の1に減らす目標を掲げ活動している◆その結果、2006年の調査で5歳の誕生日を迎えることなく亡くなった子どもが970万人となり初めて1000万人を割った。澄田さんは「この数字は、子どもたちの生死を左右する状況が着実に改善、目標達成に前進があったことを示している」としながら、それでもいまだに970万人もの命が奪われていることに心を痛め、活動への理解を求めている◆今、この世界はどうなっているのか。誕生の喜びどころか出生登録さえしない子どもが5100万人。サハラ以南のアフリカなどに多い児童労働者数1億5800万人。学校に通えない子ども9300万人。安全な飲み水を得られないでいる子どもが1億2500万人◆こんな世界の姿を知ることが大事だ。知れば自分の“立ち位置”も分かってくる。（賢）

（佐賀新聞 HP より）

ご支援・ご協力ありがとうございました

コープさが生活協同組合様 団野法律事務所様 野子中学校様 成瀬中学校様 みねまつ歯科様
21世紀を考える異業種交流・我楽多会様 佐賀ギター音楽院様 ホンダパーツ西南佐賀営業所様
内田整体院様 不道家様 ヘアー&フェイストゥース様 村岡屋様 北島様 佐賀市文化会館様
エクセルウェンズ様 **Hear&MakeEXCEL** 様 サンシャレー様 **TSUTAYA** 鍋島店様
カンフォーラ様 いっせい麺処様 佐賀空港ターミナル様 モンテカルロ太陽様 吉原内科様
ローソン佐大前店様 筑紫建設様 栗原内科消化器科医院様 アルタ開成店様 アルタ高木瀬店様
サウンドスピリッツ様 東洋館様 城東中学校様 大和中学校生徒会様 大和中学校3年生様
田口小学校様 矢山クリニック様 山小屋ラーメン南佐賀店様 風羅坊様 三瀬そば様
恵比寿鍼灸整骨院様 三日月小学校様 ファミリーマート大和店様 サロンぬくもり様
大和小学校様 ボーイスカウト佐賀第五団様 ボーイスカウト佐賀第一団様 佐賀大学紀伊国屋店様
浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟様 唐津ルーテル幼稚園父母と教師の会ルーテルデー委員会様
ムジーク・アカデミー森谷様 佐賀リハビリテーション病院様 川崎自工様 多布施クリニック様
ホテルニューオータニ佐賀様 佐賀シール工業様 田口電機株式会社様 国府団地花みずき通り様
ようどう館大和校様 ようどう館佐賀校様 最所安田法律事務所様 矢ヶ部小学校様
第一生命佐賀支社様 山内東小学校様
西村会計事務所様 雇用能力開発機構佐賀センター様 カイセイ薬局荒江店様 佐賀市役所給付係様
佐賀市役所国保二係様 鹿島商工会議所様 有田ドイツ学教室様 みのり歯科様 iスクエアビル様
嘉瀬小学校4年生様 第一生命保険佐賀支社様 ボランティアキルターズピースワーク様
さが市民活動プラザ様 佐賀市国際交流協会様 佐賀県国際交流協会様 コープさが南店様
佐賀鉄工所様 ワークステーション **SAGA** 様 野中商事様 九州合同税務会計様 道海島小学校様
三又中学校様 大川東中学校様 日新公民館様 本庄公民館様 矢ヶ部医院様 大塚製薬佐賀工場様
佐賀大学医学部社会医学講座様 (2007年11月24日~2008年2月7日)

- ★ 色々な形でのご支援ご協力を感謝申し上げます。この欄での紹介は企業・団体等のみにさせていただきます。
- ★ 個人のみなさまからもたくさんのご支援を頂いていますが、平成17年4月1日からの「個人情報の保護に関する法律」施行に伴い、個人の方のお名前の掲載は控えさせていただきます。

ボランティア 大募集!!

- ★ 日本ユニセフ協会佐賀県支部の活動をお手伝いいただける方を募集しています。
「カード頒布での出会いは楽しいね！」 「パソコン入力ならまかせて！」
「子どもたちに話すのが好き！」 「イベント企画・運営はワクワク！」
「広報紙・チラシ作りはおもしろそう！」 「切手の整理も夢中になれて楽しい！」 その他 etc.
みなさん、一緒に楽しく活動しましょう。 先ずは事務所までご連絡を！
電話&ファックス 0952-28-2077 e-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp

日本ユニセフ協会会員募集



©UNICEF

日本ユニセフ協会では会員を募集しています。

会員として、世界の子どもたちのために、応援していただけますか？

Q. 会員ってなあに？

A. 世界の子どもたちを支援する日本ユニセフ協会を、会費によってご支援いただく方法です。会員登録をしていただき、ユニセフの機関紙やさまざまなユニセフの資料を通じて、世界の子どもたちのおかれている状況について理解を深めていただくことができます。また、佐賀県支部の活動情報を入手し、会員としてさまざまなイベントにご参加いただけます。

Q. 会費の種類は？

A. 3種類あります。

- ① 一般会員…個人ならどなたでも入会できます。年会費は5,000円です。
- ② 学生会員…18歳以上の学生の方が対象です。年会費は2,000円です。
- ③ 団体会員…団体、法人、企業などが対象です。年会費は100,000円です。

Q. 会員の期間は？

A. ①の一般会員と②の学生会員は、入会月から1年間です。
③の団体会員は、毎年4月から翌年3月までの1年間です。

Q. 問い合わせ先は？

A. お問い合わせは下記事務所までお願いします。



(財)日本ユニセフ協会佐賀県支部 (佐賀市水ヶ江4-2-2)

電話&ファックス 0952-28-2077

(お電話の方は、月・火・木の10時から15時までの間にお願いします)

e-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp